

JICAボランティア出発前、大和高田市長を表敬訪問

高田市民2人 タイで指導

上嶋さん (景観の保存)
笠本さん (日本語教師)

タイ・チェンマイ県へ景観保存の指導で、大和高田市から初めて1級建築士の上嶋晴久氏(49、内本町)がシニア海外ボランティアとして派遣される。さらに青年海外協力隊員として同国ピサヌロークへ日本語教師として市内在住の笠本由香里さん(24)が出発する。30日に旅立ち、ともに2年間現地で活動する。出発の前に2人は20日に吉田誠克市長を表敬訪問し激励を受けた。



「チェンマイ県の人もまちづくりを」と、意気込みを話すシニアボランティアの上嶋さん

吉田市長は「2年間の知識、経験が高田に帰ってから生かされるような環境条件をつくりたい。健康に気をつけてがんばってください」と励ました。

上嶋さんは、「海外のまちづくりへの興味と、建築家としての社会貢献の表践をしたい」との動機で、昨年シニアボランティアに応募した。奈良町づくり保全グループ理事としてタイへ市民交流を行っ

た経験もあり、大和高田のまちづくり団体「夢咲塾」の企画委員などしている。チェンマイ県は国際都市への発展途上にあ

る。中高層ビルが多く建設され、無秩序に新興住宅地が開発されるなど、都市膨張がつづく。同県は用途分類による土地利用規制が中心であり、街づくりの方向づけやコントロールに悩んでいる。

また、文化遺産や歴史的景観の保存・活用計画や都市緑化計画の策定・実施・埋没した旧都遺跡の修景保存も緊急の課題である。

これらのことをふまえ、上嶋さんはシニアグループの一員として都市景観保存のマスター

プランのアドバイスを担当する。「タイの国づくりに協力したい。また、アジアの同朋としての同一性を築く機会にしたい」と抱負を話している。

笠本さんは、中高一貫進学校のピサヌローク校で教壇に立つ。高校生を対象に、日本語習得の向上をめざしながら、日本の文化を紹介する。



青年海外協力隊員として日本語を教える笠本さん